

特集1

ひとり立ちを応援！
消費生活ナビ

2020年版
くらしの
豆知識

SAMPLE



クイズにチャレンジ！

P9へ

Q1.
手数料がかからないクレ
ジットカードの支払い方
法は？

- ① 一括払い
- ② リボ払い
- ③ 分割払い（3回以上）

P12へ

Q2.
学生が利用できる国民年
金に関する制度は？

- ① 納付猶予制度
- ② 免除制度
- ③ 学生納付特例制度

P17へ

Q3.
アパートを退去するとき
トラブルの原因にな
ることが多いのは？

- ① 家賃
- ② 管理費
- ③ 原状回復費用

P23へ

Q4.
エステ契約をクーリング・
オフできる期間は何日？

- ① 5日間
- ② 8日間
- ③ 14日間

僕たちと一緒に、かっこいい消費者に
なるためのポイントを学んでいこう！



特集1 ひとり立ちを応援！消費生活ナビ

1. 初めてのクレジットカード

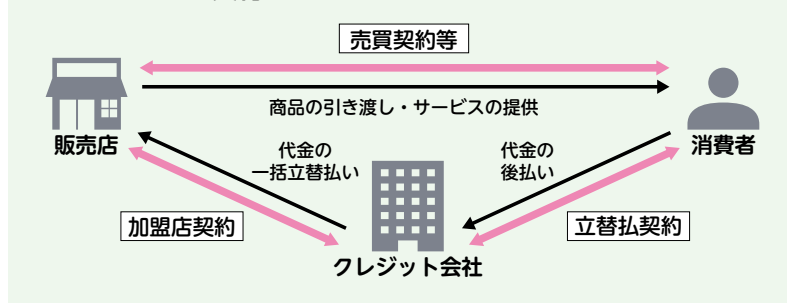


現金がなくても買い物ができる

クレジットカードがあると、手持ちの現金がなくても後払いで買い物できて便利です。一方で、しくみを理解して使うことも大切です。

クレジット契約は、買い物をした代金をクレジット会社がいったんお店に支払い、後日、消費者がクレジット会社にその代金を支払うしくみです(図)。つまり、クレジット会社は消費者が約束どおりに支払いをしてくれることを信用して代金を立て替えていることとなります。そのため、カードを発行するときには、使った代金を後で必ず支払える収入状況かどうかなどの審査があります。

図 クレジット契約のしくみ



手数料に要注意

カードで支払った代金は、基本的に、後日、登録した銀行口座から引き落とされます。**一括払い**、**ボーナス一括払い**を指定すれば一般的に手数料はかかりませんが、**分割払い***1や**リボルビング払い***2の場合には手数料がかかります。特にリボルビング払いは、毎月の支払額以上にカードを使って借入残高が増えていても気づきにくく、支払期間も長くなりがちです。借入残高が増えるとそれに応じて手数料が増え、結果として支払総額が増えてしまうので注意が必要です。契約当初の設定がリボルビング払いになっていないか確認しておきましょう。

クレジットカード利用時の注意点

クレジットカードには、つい使いすぎてしまう危険性があります。「キャッシング」などお金を借りる機能が付いている場合には、気軽に借りる癖をつけないようにしましょう。また、引き落とし日に支払いが滞ると、ブラックリストに載る*3おそれもあります。

紛失や盗難による**カードの不正利用**にも要注意です。第三者の悪用による損害には一定の補償*4がありますが、カードの裏にサインがないなど、本人に過失がある場合には補償が受けられないこともあります。不正利用されていないか**毎月の明細書を必ず確認**しましょう。

✓カード管理のチェックリスト

- カードの裏には必ずサインをしておく
- 本人のみが使用し、たとえ家族であっても貸し借りしない
- 暗証番号やセキュリティコードを他人に教えない
- 誕生日など、推測されやすい数字を暗証番号に設定しない

*1 一般的に2回までは手数料がかからない
 *2 毎月1万円など、あらかじめ設定した金額を月々支払う方法
 *3 滞納の情報が個人信用情報機関に登録されている状態
 *4 一般的に、クレジット会社へ連絡した日からさかのぼって60日以内の損害が補償される

特集2 災害に備える

1. 「自分は大丈夫」は危ない！ 災害時の心理



災害の発生が予想され、警報等により避難を呼びかけられた場合でも、私たち人間は必ずしも迅速に避難を始めるとは限りません。なぜ、避難行動が遅れてしまうのでしょうか。

なぜ「自分は大丈夫」とってしまうのか

私たちは、異常気象や災害の予報を聞いても「このくらいは普通の範囲内だ」と考える傾向があります。物事を普段の生活の範囲内で理解したい、という気持ちがあるからです。そのため、例えば「数十年に一度の大雨」という予報も、「いつもより少し雨量が多い程度で、決して大ごとにはならないだろう」と解釈してしまうのです。

また、他の地域が被災したという情報を見聞きしても、なぜか「自分だけは大丈夫」と思い込んでしまいます。自分のことは楽観的に考え、自分**は他人よりも運が良い**と**思っている**のです。被災者から「まさか自分が被災するとは思わなかった」という言葉を聞くことがありますが、それはこうした心理の表れです。

そして、いったん「大丈夫」と**思ってしまうと**、その証拠を探し出そうとします。「前回大丈夫だったから」「あの防潮堤があるから」などと、**自分の考えを補強する証拠を見つけて、安心してしま**うのです。

さらに私たちは、どうすべきか悩んだときに、**他者と同じような行動をしようとする傾向**もあります。まわりの人が逃げないから自分も逃げないという、「みんなと一緒に」の心理です。

自分の中の「危険スイッチ」を入れる

実はこうした心理は、普段の生活の中では必要なものです。なぜなら、少し変わったことが起きる度に「これは大ごとになるかもしれない」「自分は運が悪いからきっと悲惨な目にあうだろう」などと考えているのは、不安で普通の生活が送れません。「自分は大丈夫」という気持ち**が、普段の心の安定につながっている**のです。ところが、この心理が、災害時には適切な判断や迅速な避難行動を**阻んで**しまいます。

私たちにとって大切なことは、こうした人間心理をよく知っておくことです。そして、災害の発生が予測されるときには、この心理を振り払って**自分の中の危険スイッチを入れ、いち早く避難行動を取る**ことが重要です。そのためには日頃からの訓練が欠かせません。頭で分かっているからだが動かなければ、自分の命を守ることはできません。**人間の心理を理解**したうえで、**日頃から避難訓練等を行い**、いざというときに素早く行動できるように備えましょう。



特集2 災害に備える

2. 地震！ そのときどうする



4つの地殻プレートが押し合い、地震が多発する日本列島。いざというときにすぐ動けるよう、地震発生時の対応を知っておきましょう。

地震発生－「地震だ！身を守れ！」

突然の地震には、まずその場で身の安全を図る「地震だ！身を守れ！」が基本です。火の元にいれば火を止め、そうでなければ①身を低くし ②頭を守り ③揺れが収まるまで動かず待つ、の3つの安全行動（図）を取りましょう*1。

長年いわれた「地震だ！火を消せ！」は、大正時代の関東大震災での教訓です。大火で犠牲者が増えた当時と違い、今の調理・暖房器具には、揺れに反応する対震自動消火装置が付いているものも多いので、慌てて火を消しに行くよりも、まずは身の安全を優先しましょう。

緊急地震速報は、テレビやラジオ、携帯電話や防災無線スピーカー等で聞くことができます。直下型地震には間に合いませんが、そのほかの大地震では、数秒から数十秒の余裕が安全確保の助けになります。

図 3つの安全行動



*1 「なぜ「まず低く、頭を守り、動かない」なのか？」（効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議）
<http://www.shakeout.jp/why.shtml>

3～5分後－周囲の安全確認、津波からの避難

揺れが収まったら、周囲の人の無事と火の元を確認し、避難通路を確保します。余震に備え、細かい片付けは後にし、ガラスが散った場所には手近な物を敷き、靴やスリッパを履いて足を保護します。

海沿いの地域では、揺れが1分以上続いたら、津波が起きる規模の地震と考え、直ちに近くの高台や津波避難ビルに避難しましょう。警報を待つ数分間ですら津波が来てしまう地域もあります。事前に津波ハザードマップ*2で、避難場所や避難経路等を確認しておきましょう。

5～10分後－避難するときの注意点

今いる場所が危険なら屋外に避難しますが、その際、ガスの元栓に加え、電気ブレーカーも切りましょう。破損した電線が復旧時に発火する通電火災を防ぐためです。また、窃盗被害防止のため、書き置きは外に貼らず玄関内など関係者だけが分かる所に残しましょう。避難の際は、貴重品や重要な情報、当座の必需品をまとめた非常持ち出し袋*3を忘れずに。



避難先の種類と役割

「避難先＝学校」とは限りません。まず避難する最寄りの公園などの一時避難場所*4、さらに危険が迫ったときのための広域避難場所、自宅の全壊等で居場所を失った人が暮らす避難所、介護や心身障害などサポートが必要な人向けの福祉避難所が、自治体で指定されています。防災マニュアルや災害ハザードマップで確認しておきましょう。

*2 「備えよう（1）住まいの安全」p39 参照

*3 「備えよう（2）普段からの備蓄」p40 参照

*4 「一次避難場所」「一時集合場所」などの名称にしている自治体もある